

IBM Rational
System Architect Process Integrator
インストール・ガイド
リリース 11.3.1

本書をご使用になる前に、付録『特記事項』(18 ページ)に記載されている情報をお読みください。

本書は、リリース 11.3.1 の IBM® Rational® System Architect® Process Integrator™、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright IBM Corporation 1986, 2009

目次

はじめに	1
インストールの概要	2
オペレーティング・システムの要件:	2
ハードウェア要件	3
ライセンス要件	3
Rational SA Process Integrator の概要	5
Rational System Architect	5
Rational System Architect XT サーバー	5
Rational System Architect Catalog Manager	7
Rational SA Process Integrator のインストール	8
パート I - インストールする Rational SA Process Integrator のバージョンを選択する	8
パート II - Rational SA Process Integrator のインストール・ウィザードを実行する	9
Rational SA Process Integrator オプションの構成	10
オンライン/オフラインによるエンサイクロペディア・アクセスの有効化	10
ユーザー・セッションのタイムアウト設定の変更	10
SQL Oracle サーバーに対する Rational SA Process Integrator のログイン資格情報	11
サーバーのポートの変更	12
Rational SA Process Integrator Service の再始動	13
Rational SA Processor Integrator のサイレント・インストール - Visio 2003	14
IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ	15
特記事項	18
商標	20

Rational SA Process Integrator のインストール

はじめに

IBM® Rational® System Architect® Process Integrator™ は、Microsoft® Office Visio® プロセスのモデル作成者がお好みの環境で作業できるようにする、有償のアドオン製品です。モデル作成者は Visio のみで作業を行い、エクスポート/インポート・メカニズムを使用してリポジトリ成果物を交換することができます。モデル作成者は Visio のみで作業を行えますが、さらに Rational System Architect リポジトリへの接続をセットアップして、オンライン・モードでもオフライン・モードでも作業を行えます。これによりエクスポート/インポート・メカニズムを使用することなく、エンサイクロペディア・リポジトリとの間で直接ダイアグラムの受け渡しができます。

Visio ユーザーに対して Rational SA Process Integrator は、ビジネス・プロセス・モデリング表記法 (BPMN) テンプレート、モデリング・エラー・チェックのほか、モデルおよび成果物の管理と再利用のための中央リポジトリ・ストレージを提供します。Visio プロセス・モデルは、詳細分析、シミュレーション、および実行のために Rational System Architect で開くことができます。この2つのモデリング・ソリューションを組み合わせることで、Visio モデルを Rational System Architect® Web Publisher™ および IBM Rational System Architect® XT™ を含む Rational System Architect スイートのアプリケーションに組み込むことができます。

本ガイドは、Rational SA Process Integrator のインストールと実行に必要なすべての情報 (ライセンス、システム、およびソフトウェア要件を含む) を提供します。

インストールの概要

Rational SA Process Integrator は、Visio 2003 および Visio 2007 用のインストール・パッケージを提供します。また Rational SA Process Integrator は、Service Pack 1 を適用済みの Visio 2003 および Service Pack 1 を適用済みの Visio 2007 をサポートしています。それより古いバージョンの場合は、Microsoft .Net Framework 2.0 および Visual Studio 2005 Tools for Office Second Edition Runtime をインストールする必要があります。これらのコンポーネントは、いずれもインストール・パッケージに含まれています。2007 バージョンでは、これらのコンポーネントをインストールする必要はありません。Visio の各バージョンに対する Rational SA Process Integrator のインストール方法については、本ガイドで後述します。

注: Rational SA Process Integrator のインストール担当者には、システムの管理者特権が必要です(インストール中のみ)。

オペレーティング・システムの要件:

- Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (Service Pack 1 適用済み) 以降
- Microsoft Windows XP (Service Pack 2 適用済み)
- Microsoft Windows Vista Business Edition - Windows Vista Business Edition における Rational SA Process Integrator のインストールおよびランタイム要件は、以下のよう
に、ご使用になる Visio のバージョンによって異なります。

Microsoft Visio 2003 Standard Edition または Professional Edition

- インストールの前にユーザー・アカウント制御 (UAC) を「有効 (On)」にしておく必要があります。「コントロールパネル」で UAC を有効にするには、「クラシック表示」を選択し、「ユーザーアカウント」を開いて「有効 (On)」を選択します。
 - インストール時には、ライセンス情報を指定する必要があります。
 - Rational SA Process Integrator の実行時は、UAC 設定を「有効 (On)」にしておく必要があります。
 - Microsoft の Office スイートがインストールされている場合、それは Office 2003 である必要があります。
- o Microsoft Visio 2007 Standard Edition または Professional Edition
- Microsoft Visio 2007
 - Rational SA Process Integrator をインストールする前に、ユーザー・アカウント制御を「無効 (Off)」にしておく必要があります。

- Microsoft の Office スイートがインストールされている場合、それは Office 2007 である必要があります。
- Microsoft Windows ターミナル サービスまたは Citrix® サーバー

ハードウェア要件

Rational SA Process Integrator および Visio のハードウェア要件は以下のとおりです。

- システムの管理者特権 (インストール中のみ)。
- Pentium クラスの PC (500 MHz 以上)、最小で 256 MB の RAM、SVGA モニター (画面解像度は最小で 800 x 600 に設定、スモール・フォント設定)。
- ディスク・スペース: インストール時は 100 MB、インストール完了後は 60 MB。
- Microsoft Office Visio のバージョンごとのハード・ディスク要件は以下のとおりです。
 - Visio 2007 - Standard Edition - 1.5 ギガバイト (GB) のハード・ディスク・スペース。
 - Visio 2007 - Professional Edition - 1.5 GB のハード・ディスク・スペース
 - Visio 2003 - Standard Edition - 160 MB のハード・ディスク・スペース。これには、オペレーティング・システムがインストールされているハード・ディスクの 75 MB が含まれます。オプションのインストール・ファイル・キャッシュをインストールする場合は、さらに 155 MB の使用可能なハード・ディスク・スペースが必要です。
 - Visio 2003 - Professional Edition - 210 MB の使用可能なハード・ディスク・スペース。これには、オペレーティング・システムがインストールされているハード・ディスクの 75 MB が含まれます。オプションのインストール・ファイル・キャッシュをインストールする場合は、さらに 155 MB の使用可能なハード・ディスク・スペースが必要です。

ライセンス要件

Rational SA Process Integrator では、使用できるライセンス・タイプが 2 つあります。Microsoft Visio が稼働している環境によって、必要なライセンス・タイプは異なります。ライセンス・オプションは以下のとおりです。

- ノードロック・ライセンス – サポート対象の Windows のバージョン (すなわち

Microsoft Windows XP (Service Pack 2 適用済み)、Microsoft Windows Vista Business Edition、Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (Service Pack 1 適用済み) 以降) のいずれかがインストールされたマシンで Rational SA Process Integrator を実行する場合に使用します。ノードロック・ライセンスは、個々のクライアント・マシンに「関連付けられています」。

- **同時使用ライセンス** – Citrix またはターミナルサーバー環境で Rational SA Process Integrator を実行する場合に使用します。ライセンスは、Macrovision の FLEXnet ライセンス・システムによって管理されています。Rational SA Process Integrator は実行時に「Rational System Architect-Process-Integrator」ライセンス機能を使用します。

ライセンス情報は、インストール時または Rational SA Process Integrator を初めて実行するときに指定できます。

ライセンスについて詳しくは、「IBM Rational Lifecycle Solutions ライセンス・ガイド」を参照してください。これは、IBM Rational サポート・サイト (<http://www.ibm.com/software/rational/support/telelogic/>) およびインストール・パッケージにあります。

Rational SA Process Integrator の概要

Rational SA Process Integrator は、以下に示す Rational System Architect スイートの製品と連携します。これらの製品の詳しいインストール情報については、「Rational System Architect and System Architect XT インストール・ガイド」を参照してください。これは、IBM Rational サポート・サイト (<https://support.telelogic.com/systemarchitect>) およびインストール・パッケージにあります。

Rational System Architect

インポート/エクスポート・メカニズムを使用して BPMN ダイアグラムの受け渡しを行うユーザーは、Rational System Architect のエンサイクロペディアがあるサーバーにアクセスする必要がありません。ただし、拡張オンライン/オフライン機能を有効にするユーザーは、ネットワーク上の他のユーザーに Rational System Architect をインストールしてもらう必要があります。Rational SA Process Integrator は Rational System Architect のアドオン製品であり、これを使用してエンサイクロペディアを作成することはできません。このため、エンサイクロペディアを作成する権限、およびエンタープライズ・エンサイクロペディアへのアクセスを管理するために Rational SA Catalog Manager を使用する権限を持つ Rational System Architect ユーザーが、少なくとも 1 人必要です。

注: Rational SA Process Integrator をインストール済みのマシンに Rational System Architect をインストールすることに対する制限はありません。

Rational System Architect XT サーバー

Rational SA Process Integrator クライアントがエンタープライズ・エンサイクロペディアに接続するには、Rational System Architect XT SAService を使用する必要があります。SAService は、エンタープライズ・エンサイクロペディアがあるサーバーに Rational SA Process Integrator クライアントを接続する、Rational System Architect XT のコンポーネントです。サーバーでは、エンサイクロペディアへのアクセスは Rational SA Catalog Manager で管理します (後述を参照)。この SAService コンポーネントは、ユーザーが拡張オンライン/オフライン機能を有効にする場合に実行する必要があります。

重要: 実行時に、Rational SA Process Integrator がオンライン・メソッドでエンサイクロペディアに接続すると、SAService はライセンス・サーバーに接続し、SA-PROCESS-INTEGRATOR-SERVER ライセンスを取り込みます。クライアントが接続を切断してオフライン・モードで動作するようになると、ライセンスを解放します。以下のように SAService を使用できます。

- Rational System Architect XT がネットワークのサーバーにすでにインストール済

み、またはインストール中である場合、Rational SA Process Integrator クライアントはそのインストールで実行中の SAService を使用できます。

- ネットワークに Rational System Architect XT がインストールされていない場合、SAService コンポーネントで Rational System Architect XT ソフトウェアをインストールできます。インストールを行うには、コマンド行スイッチで Rational System Architect XT のインストール・ウィザードを実行します (後述を参照)。このインストール・オプションによって SAService がインストールされます。Rational System Architect XT クライアント・ライセンスを購入していただく必要はありません。

Rational System Architect XT SAService コンポーネントのインストール

SAService コンポーネントをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. インストール・パッケージまたは Web サイトから、Rational System Architect XT のインストール・ファイルを取得します。
2. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択し、「名前」フィールドに `cmd` と入力して、「OK」をクリックします。
3. インストール・ファイル `SystemArchitectXT_11.3.1.exe` があるフォルダーへ移動します。
4. 以下のように、コマンド行オプションを指定してインストール・コマンドを入力します。

```
SystemArchitectXT_11.3.1.exe /V"SAPI_SERVER=\Yes\""
```

または、

```
SystemArchitectXT_11.3.1.exe /v"SAPI_SERVER=\Yes"
```

5. **Enter** キーを押してインストールを開始します。
6. IBM Rational System Architect XT InstallShield® ウィザードの指示に従って、インストールを完了します。詳しくは、「Rational System Architect and System Architect XT インストール・ガイド」を参照してください。これは、IBM Rational サポート・サイト (<http://www.ibm.com/software/rational/support/telelogic/>) およびインストール・パッケージにあります。

必要に応じて、SAService が正常にインストールされたことを確認するために、Windows の「コントロールパネル」の「サービス」コンポーネントに移動します。ここで、「SAService」の「状態」が「開始」になっているはずですが。

Rational System Architect Catalog Manager

Rational System Architect Catalog Manager は、Rational System Architect エンサイクロペディアに対してエンタープライズ・レベルのロール・ベース・アクセス制御機能を提供します。アクセス制御はエンタープライズ・カタログによって実施されます。アクセス制御の対象となるエンサイクロペディアをカタログにアタッチします。これを「エンタープライズ」エンサイクロペディアといいます。

Rational SA Process Integrator はエンタープライズ・エンサイクロペディアのみをサポートするため、ユーザーを作成し、ユーザーにエンサイクロペディアを割り当て、エンタープライズ・エンサイクロペディアで1つ以上のロールをユーザーに付与するには、Rational System Architect Catalog Manager を使用する必要があります。

Rational System Architect Catalog Manager は、Rational System Architect および Rational System Architect XT と共に自動的にインストールされます。いずれかの製品でインストールされたバージョンを使用できますが、そのバージョンが、Rational SA Process Integrator でアクセスするエンサイクロペディアが入っているサーバーにアクセスできなければなりません。

エンタープライズ・カタログ

エンタープライズ・カタログは、同じサーバー上の他のデータベース (すなわち、Rational System Architect エンサイクロペディア) に関する情報を保持する SQL Server データベースまたは Oracle データベースです。Oracle では、カタログはデータベース内のスキーマです。カタログは、そのカタログにアタッチされているエンサイクロペディアを制御します。これらのエンサイクロペディアは、「エンタープライズ」エンサイクロペディアといいます。Rational System Architect Catalog Manager を使用すると、「エンタープライズ」エンサイクロペディアにどのユーザーがアクセスでき、何を表示および実行できるかをカタログで制御できます。

サーバーとカタログの間には1対1の対応関係があり、また、1つのカタログで複数のエンサイクロペディアへのアクセスを制御できます。Rational System Architect Catalog Manager は、カタログ・データベースへの許可も制御するので、`{xe "permissions"}` インストール担当者は他のユーザーに管理者ロールを割り当てることも可能です。これにより、カタログ関連作業の一部またはすべてを他のユーザーに委託できます。ただし、Rational System Architect Catalog Manager のインストール担当者は、カタログに対して、したがってそれにアタッチされたすべてのエンサイクロペディアに対して、最終的な制御を行います。

Rational SA Process Integrator のインストール

IBM では Visio 2003 用および Visio 2007 用に別々の Rational SA Process Integrator インストール・パッケージを提供しています。これらのバージョンによってインストール要件が異なるため、インストール・ウィザードの実行前に必要となる予備手順は、インストールするバージョンに応じて違います。

パート I - インストールする Rational SA Process Integrator のバージョンを選択する

Rational SA Process Integrator のインストール・ファイルは、CD または Web サイトにあります。後述の説明に従って、ご使用のコンピューターの Visio のバージョンに応じた Rational SA Process Integrator のバージョンをインストールしてください。

CD からインストールする場合、ディスクを CD-ROM ドライブに挿入し、インストールするバージョンを選択して、画面上の指示に従います。

Web サイトからダウンロードした場合、インストール・ファイルをフォルダーに解凍して、ダウンロードした Rational SA Process Integrator のバージョンに応じた手順を行います。

- **Visio 2003 用の Rational SA Process Integrator**
 - Visio 2003 用の Rational SA Process Integrator のファイル名は、**SAPI_Visio2003_11.3.1.zip** です。
 - zip ファイルの内容を、任意のフォルダーに解凍します。解凍した zip ファイルには、3 つの実行可能ファイルが入っています。
 - 「**dotnetfx.exe**」ファイルをクリックして、Microsoft .Net Framework 2.0 をインストールします。それより古いバージョンの Framework がインストールされている場合、バージョン 2.0 をインストールしても、古いバージョンはそのまま残ります。古いバージョンを使用している他のアプリケーションは影響を受けません。
 - 「**vstor.exe**」ファイルをクリックします。これで必要な「Visual Studio 2005 Tools for Office Second Edition Runtime」がインストールされます。
 - 「**setup.exe**」ファイルをクリックして、Rational SA Process Integrator 2003 をインストールします。
 - 後述の『パート II - Rational SA Process Integrator のインストール・ウィザードを実行する』セクションに進んで、インストールを完了します。

- **Visio 2007 用の Rational SA Process Integrator**
 - Visio 2007 用の Rational SA Process Integrator ファイル SAPI_Visio2007_11.3.1.exe をダウンロードしたフォルダーを開きます。
 - 「SAPI_Visio2007_11.3.1.exe」 ファイルをクリックします。
 - 後述の『パート II - Rational SA Process Integrator のインストール・ウィザードを実行する』セクションに進んで、インストールを完了します。

パート II - Rational SA Process Integrator のインストール・ウィザードを実行する

上記のとおり Visio 2003 用の Rational SA Process Integrator または Visio 2007 用の Rational SA Process Integrator のインストールを開始したら、以下の手順を実行してインストールを完了します。

1. 最初の「**IBM Rational SA Process Integrator**」ウィザード画面で、「次へ」をクリックします。「**使用許諾**」画面が表示されます。
2. 「**使用許諾契約書の条件に同意します**」オプションを選択して、「次へ」をクリックします。この画面から使用許諾契約書を印刷できます。
3. 「**カスタマー情報**」画面で、「**ユーザー名**」および「**会社名**」をそれぞれのフィールドに入力します。「このアプリケーションをインストールして使用するユーザー」フィールドを確認して、「このコンピューターを使用する任意のユーザー (すべてのユーザー)」または「自分 (<your user name>) のみ」のいずれかを選択します。ターミナル サーバーまたは Citrix にインストールしている場合は、「すべてのユーザー」オプションを選択する必要があります。
4. 「次へ」をクリックします。「**インストール先の選択**」画面が表示されます。
5. Rational SA Process Integrator のインストール先を選択します。デフォルトのフォルダー (C:\Program Files\IBM\Rational\System Architect Suite\11.3.1\SA-Process Integrator) をそのまま使用することも、「**参照**」をクリックして別のフォルダーを選択することもできます。
6. 「次へ」をクリックします。「**ライセンス情報**」画面が表示されます。ライセンス・オプションについては、前述の『**ライセンス要件**』セクションを参照してください。
7. 「次へ」をクリックします。「**ファイルのコピー開始**」画面が表示されます。この画面には、選択されたインストール・オプションの要約が表示されます。内容を確認して、変更の必要があれば前の手順に戻ります。
8. 「**セットアップ状況**」画面に、インストール・ウィザードで実行された処置が表示されます。
9. 「**完了**」をクリックして、Rational SA Process Integrator のインストールを完了します。

Rational SA Process Integrator オプションの構成

BPMN ダイアグラムおよび定義の操作を行うのにデフォルトのインポート/エクスポート・メカニズムしか使用しない場合、これ以上構成する必要はありません。Visio で作業して、ダイアグラムまたは定義を XML ファイルとしてインポートまたはエクスポートすることのみが必要です。このモードでの作業について詳しくはオンライン・ヘルプを参照してください。

インストール完了後に、オプションとして、以下のセクションの説明に従って SAService を構成することを選択する場合や、このような構成が必要になる場合があります。

重要:

1. 「SAService.dll.config」ファイルを変更する前に、そのバックアップ・コピーを作成しておく必要があります。不正な変更を行うと、SAService を再始動できなくなります。
2. 「SAService.dll.config」ファイルで SAService に変更を加えたら、変更した内容を有効にするためには、すべてのユーザーをログオフさせて SAService を再始動する必要があります (後述の『Rational SA Process Integrator Service の再始動』セクションを参照してください)。

オンライン/オフラインによるエンサイクロペディア・アクセスの有効化

エンサイクロペディアに接続してオンライン/オフライン・メカニズムを使用すると、エンサイクロペディア・リポジトリに直接接続できます。この機能を使用するには、オンライン・ヘルプの「オンライン/オフラインによるエンサイクロペディア・アクセスの有効化 (Enabling Online/Offline Encyclopedia Access)」セクションの説明に従って Rational SA Process Integrator を構成する必要があります。オンライン・ヘルプを表示するには、Rational SA Process Integrator を始動して、Rational SA Process Integrator ツールバーのヘルプ・アイコンをクリックします。

ユーザー・セッションのタイムアウト設定の変更

ユーザー・セッションのタイムアウト設定を変更するには、以下の手順を実行します。

1. 「SAService.dll.config」ファイル (デフォルトでサブフォルダー C:\Program Files\IBM\Rational\System Architect Suite\11.3.1\SA-Process Integrator にインストールされる) を開きます。
2. 「leaseTime」および「renewOnCallTime」プロパティを追加します。それぞれ以下の機能があります。

LeaseTime - 「leaseTime」設定は、Rational SA Process Integrator Server が他のクライアントが使用するためにクライアント・ライセンスを解放するまでの、ライセンスのアイドル状態の時間(分単位)を制限します。「leaseTime」のデフォルト値は「0」で、タイムアウト・オプションが「オフ」であることを意味します。この値を正数に変更すると、設定が「オン」になります。例えばタイムアウト値を「30M」に設定すると、アイドル状態が 30 分間続いているクライアント・ライセンスが解放されます。一般的なタイムアウト値は 15M から 30M までです。

renewOnCallTime - 「renewOnCallTime」設定は、タイムアウト・カウンターをユーザーが選択した値に更新します。ただし、ユーザーが選択した値が「leaseTime」値より大きくなければなりません。「leaseTime」値が「0」(デフォルト)の場合、「renewOnCallTime」は適用されません。「leaseTime」値が「0」より大きい場合にのみ適用されます。一般的な値は、15M から 30M までです。

注: 「leaseTime」および「renewOnCallTime」の値を変更して間隔を短くすると、ユーザーの作業方法や作業の保存方法に影響を与える場合があります。

以下のパラメーターを使用して、タイムアウト設定を必要に応じて変更します。

D は日、
H は時、
M は分、
S は秒、
MS はミリ秒をそれぞれ示します。

以下の **SAService.dll.config** ファイル・コード・サンプルは、タイムアウト値を 15 分に設定します。

```
<lifetime leaseTime="15M" renewOnCallTime="15M"
sponsorshipTimeOut="0M" pollTime="30s"/>
```

3. 変更を保存して、「**SAService.dll.config**」ファイルを閉じます。
4. 変更した内容を有効にするには、Rational SA Process Integrator Service (SASevice) を再始動します。再始動については、後述の『Rational SA Process Integrator Service の再始動』セクションを参照してください。

SQL Oracle サーバーに対する Rational SA Process Integrator のログイン資格情報

Rational SA Process Integrator Service は、ユーザーが SQL Oracle サーバーにアクセスするために以下の認証メカニズムを提供します。

- **Rational System Architect Catalog Manager 認証** - ユーザーは、Rational System Architect Catalog Manager でカタログに追加されます。Rational System Architect Catalog Manager を使用してユーザー名 (「DomainName\UserName」形式) を追加

して、エンタープライズ・カタログのエンサイクロペディアへのユーザー・アクセスを付与します。このユーザーは、ネットワーク・ドメインで認証済みである必要があります。

- **Windows 認証** – サーバー上で SAService を始動するユーザー・アカウントにのみ、SQL サーバーまたは Oracle データベースへの管理者権限が必要です。デフォルトでは、SAService は「ローカル・システム・アカウント」によって始動されます。これにより、同じマシン上で稼働中の SQL データベースへのアクセス権が自動的に取得されます。Oracle では、SAService を始動するユーザーはデータベースへのアクセス権を手動で取得する必要があります。

SQL サーバーまたは Oracle サーバーと同じマシンで SAService が稼働していない場合、(上記で説明したとおり) Windows 認証でログインしているネットワーク・ユーザーは SAService を (再) 始動して、ユーザーがエンタープライズ・エンサイクロペディアを使用できるようにする必要があります。

- **データベース認証** – このメカニズムでは、Oracle ユーザーは Oracle データベースにアクセスできます。データベース認証のための値の追加は、インストール時に行うことも、(デフォルトのインストール・パス C:\Program Files\IBM\Rational\System Architect Suite\11.3.1\SA-Process Integrator にある) SAService.dll.config ファイルの DBUser および DBPassword のプロパティにその値を入力して行うこともできます。「SAService.dll.config」では、以下のように「connectionString」タグに適切な「DBUser」値および「DBPassword」値を入力します。

```
<connectionStrings>
<add name="DBUser" connectionString="DBUserName"/>
<add name="DBPassword" connectionString="DBUserPassword"/>
</connectionStrings>
```

サーバーのポートの変更

Rational SA Process Integrator Server は、デフォルトでポート番号「8022」を使用します。Rational SA Process Integrator Server をインストールした後でポート番号を変更する場合は、以下の説明に従って「SAService.dll.config」ファイルを編集する必要があります。

注: 「SAService.dll.config」ファイルを変更する前に、そのバックアップ・コピーを作成しておくことをお勧めします。不正な変更を行うと、SAService を再始動できなくなります。

ポート番号を変更するには、以下の手順を実行します。

1. テキスト・エディターを使用して、デフォルトのインストール・パス (C:\Program Files\IBM\Rational\System Architect Suite\11.3.1\SA-Process Integrator)

にある「SAService.dll.config」ファイルを開きます。

2. ポート番号が指定された「channel」タグを、以下のコード・サンプルに示します。

```
<channels>  
<channel name="SAServer" ref="tcp" port="8022" displayName="TCP Channel (SAServer)" />  
</channels>
```

3. ポート番号を任意の番号に変更します。
4. 「SAService.dll.config」ファイルを保存して閉じます。

変更した内容を有効にするには、SA Process Integrator Service を再始動します。再始動については、以下の『Rational SA Process Integrator Service の再始動』セクションを参照してください。

Rational SA Process Integrator Service の再始動

「SAService.dll.config」ファイルへの変更を有効にするには、Rational SA Process Integrator Service を再始動する必要があります。最も好ましいのは、サービスを再始動する前にすべてのユーザーがログオフすることです。

Rational SA Process Integrator Service を再始動するには、以下の手順を実行します。

1. Windows の「スタート」メニューをクリックし、「設定」、「コントロールパネル」の順に選択して、「管理ツール」を選択します。
2. 「サービス」をクリックします。「サービス」コンソールが表示されます。
3. 「SAService」を右クリックして、「再起動」を選択します。「サービス コントロール」ダイアログに再始動の進捗状況が表示され、完了時に通知が表示されます (これは Windows XP SP 2 の場合であり、Windows のバージョンによってダイアログおよびメッセージが異なります)。
4. 「OK」をクリックして、「サービス コントロール」ダイアログを閉じます。

Rational SA Processor Integrator のサイレント・インストール - Visio 2003

上記の標準インストール・オプションに加えて、Visio 2003 用の Rational SA Process Integrator (Rational SA Process Integrator 2003) をサイレント・モードでインストールすることもできます。サイレント・インストールでは、Microsoft Windows Installer (MSI) テクノロジーを使用します。このテクノロジーによって、ユーザーにインストール値の入力を求めるダイアログ・ボックスを表示することなく Rational SA Process Integrator 2003 をインストールできます。複数のユーザーに対して同じインストールを行うことになるシステム管理者にとって、これは便利です。

Rational SA Process Integrator 2003 のサイレント・インストールの要件

ご使用のコンピュータには、以下のソフトウェアが既にインストールされていなければなりません。

- Microsoft .Net Framework 2.0
- Microsoft Visual Studio 2005 Tools for Office Runtime (VSTO) – VSTO アプリケーションおよび Office アドインを Visual Studio IDE で開発可能にする (プロジェクト・タイプおよびプロジェクト制御の) アドオンです。このバージョンは、2003 および 2005 用です。
- Microsoft Office 2003 プライマリ相互運用機能アセンブリ – 管理コードと Office 2003 COM 型ライブラリー間の相互運用を容易にします。

サイレント Rational SA Process Integrator 2003 の実行

コマンド行オプションによりプロパティ値を指定して、サイレント・インストールを実行することができます。

コマンド行オプションによる Rational SA Process Integrator 2003 のサイレント・インストール

1. 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択し、「名前」フィールドに **cmd** と入力して、「OK」をクリックします。
2. コマンド行オプションを入力します。(値のコピーおよび貼り付けはしないでください。空白が挿入され、インストールが正しく行われなくなる可能性があります。)

実際のプロパティ値を使用して、以下の例のようにコマンド行オプションを入力します。

```
msiexec /i "SAVisioDesigner.msi" /qn TARGETDIR=" C:\Program Files\IBM\Rational\System Architect Suite\11.3.1\SA-Process Integrator"
```

3. **Enter** キーを押してインストールを開始します。

IBM サポート

IBM Rational ソフトウェア・サポートへのお問い合わせ

セルフ・ヘルプ・リソースを使用しても問題を解決できない場合は、IBM® Rational® Software Support にお問い合わせください。

注: 旧 Telelogic 製品をご利用のお客様は、すべてのサポート・リソースを以下の参照サイトで確認できます。 <http://www.ibm.com/software/rational/support/telelogic/>

前提条件

IBM Rational Software Support に問題を送信するには、Passport Advantage® の有効なソフトウェア保守契約を締結している必要があります。Passport Advantage は、IBM の包括的なソフトウェア・ライセンスおよびソフトウェア保守 (製品のアップグレードおよび技術サポート) オファリングです。Passport Advantage には、以下のサイトでオンライン登録が可能です。

<http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/howtoenroll.html>

- Passport Advantage について詳しくは、以下の Passport Advantage FAQ サイトにアクセスしてください:
http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/brochures_faqs_quickguides.html
- 他にご質問などございましたら、IBM 担当員にお問い合わせください。

IBM Rational Software Support に問題を (IBM Web サイトから) オンラインで送信するには:

- IBM Rational Software Support Web サイトでユーザーとして登録します。登録方法について詳しくは、以下のサイトにアクセスしてください:
<http://www.ibm.com/software/support/>
- サービス要求ツールで許可された呼び出し元としてリストに入れます。

その他の情報

Rational ソフトウェア製品に関するニュース、イベント、およびその他の情報については、以下の IBM Rational ソフトウェア Web サイトにアクセスしてください：
<http://www.ibm.com/software/rational/>

問題の送信

IBM Rational Software Support に問題を送信するには：

1. 問題が及ぼすビジネス上の影響を判別します。IBM に問題を報告するときには、重大度レベルを提示するように求められます。したがって、報告する問題が業務に及ぼす影響を理解し、評価する必要があります。

重大度レベルの判別には、以下の表を使用してください。

重大度	説明
1	問題が業務に重大な影響を及ぼします。プログラムを使用できないため、運用上の重大な影響が発生します。この状態は即時に解決する必要があります。
2	この問題は、業務に大きな影響を及ぼします。プログラムは使用可能ですが、その機能は極度に限定されます。
3	この問題は、業務に多少の影響を及ぼします。プログラムは使用可能ですが、あまり重要でない機能(運用上の重大な影響が発生しない)は使用できません。
4	この問題は、業務に最小限の影響を及ぼします。問題が運用に及ぼす影響がほとんどないか、または問題に対する適切な回避策が既に実施されています。

2. 問題を記述し、背景情報を収集します。IBM に対して問題を説明するときには、できる限り具体的な情報を提供してください。IBM Rational Software Support スペシャリストの支援によりお客様が問題を効率的に解決できるように、関連する背景情報をすべて提出してください。時間を節約するために、以下の質問に対する回答を準備してください。
 - 問題が発生したときに実行中だったソフトウェアのバージョンは何か。
 - 正確な製品の名前とバージョンを判別するには、以下から適切な方法を選択してください。
 - IBM Installation Manager を始動し、「ファイル」>「イン

ストール済みパッケージの表示 (View Installed Packages)」をクリックします。パッケージ・グループを拡張し、パッケージを選択してパッケージ名とバージョン番号を確認します。

- 製品を始動し、「ヘルプ」>「バージョン情報」をクリックし、製品名とバージョン番号を確認します。
 - オペレーティング・システムとバージョン番号は何か (すべてのサービス・パックまたはパッチを含む)。
 - 問題の徴候に関連するログ、トレース、およびメッセージはあるか。
 - 問題を再現することができるか。再現できる場合、どのステップを実行すると問題が再現するか。
 - システムに変更を加えたか。例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーキング・ソフトウェア、あるいは他のシステム・コンポーネントを変更したか。
3. この問題のために現在予備手段を使用していますか。使用している場合は、問題を報告するときに予備手段について説明できるように準備してください。
4. 以下の方法のいずれかを使用して、IBM Rational Software Support に問題を送信してください。
- オンライン: IBM Rational Software Support Web サイト <https://www.ibm.com/software/rational/support/> にアクセスします。Rational サポート・タスク・ナビゲーターで、「Open Service Request」をクリックします。電子問題報告ツールを選択し、問題管理レコード (PMR) を開いて問題を記述します。
 - サービス要求をオープンにする方法について詳しくは、以下のサイトにアクセスしてください: <http://www.ibm.com/software/support/help.html>
 - IBM Support Assistant を使用して、オンライン・サービス要求をオープンにすることもできます。詳しくは、以下のサイトにアクセスしてください: <http://www.ibm.com/software/support/isa/faq.html>
 - 電話によるお問い合わせ: お住まいの地域でご利用いただける電話番号については、IBM の各国別連絡先登録簿 (<http://www.ibm.com/planetwide/>) にアクセスして、該当の地域名をクリックしてください。
 - IBM 担当員を介して: IBM Rational Software Support にオンラインまたは電話でアクセスできない場合は、IBM 担当員にお問い合わせください。必要に応じて、IBM 担当員がお客様に代わってサービス要求をオープンすることができます。国別の詳細な連絡先情報については、以下のサイトにアクセスしてください: <http://www.ibm.com/planetwide/>

特記事項

© Copyright IBM Corporation 1986, 2009.

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502

神奈川県大和市下鶴間1623番14号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

IBM World Trade Asia Corporation

Licensing

2-31 Roppongi 3-chome, Minato-ku

Tokyo 106-0032, Japan

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任または保証条件は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が 禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software
IBM Corporation
1 Rogers Street
Cambridge, MA 02142
U.S.A

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権ライセンス

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. 2000 2009.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> www.ibm.com/legal/copytrade.html をご覧ください。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。